

うやくをふくして、いとくさきによりてなんえたいめん給はらぬ、まのあたりならずとも、さるべからんざうじらはうけ給はらんと、略○下

〔本朝醫談〕源氏物語、月頃ふびやうのおもければ、極熱の草藥を服と、大和本草、蒜、夏月食之、解暑毒故といふは、うけがたし、本文は、草の性熱なる事をいふなり、蒜薤の類は、下利を治する物なり、されば、ふびやうははら下る事にて、腹痛の文字也、古人病ありて、療養の爲に、これ等輩物を食する内、毒忌の日數あり、これを名けて、蒜間葱間韭間ヒトマキマキマキなどいふ故に、歌にもよめり、源氏さ、がにのふるまひゑるき夕暮にひるますぐせといふがあやなき、逢事のよをしへだつる中ならばひるまも何かまばゆからまし、

〔延喜式三十七典藥〕諸司年料雜藥 齋宮寮五十三種

芒硝七兩四銖、防風一兩二分四銖、麻黃二兩三分四銖、蚶銜九兩一分、石膏一兩三分、芎藭七兩三分、大黃一斤四兩二分四銖、人參十兩、紫苑二兩二分、柴胡五兩、黃芩十一兩二分二銖、黃連一兩二銖、皂莢二分一銖、芍藥六兩、漏蘆六兩一分、連翹十五兩、白蘇十兩二分、蘆茹四兩一分、附子九斤十五兩、干薑七兩二分、猪膏六十四斤八兩、白朮七斤十兩二分、烏頭十四斤四兩、半夏二兩二分、桔梗九斤五兩二分、細辛七斤十四兩、吳茱萸一斤六兩、昌蒲二兩二分、伏苓二兩二分、蜀椒二斤二分、桃人二兩、枳實十二兩一分二銖、亭藎子二兩一分、杏人二兩三分二銖、厚朴ホトクハシ二分二銖、支子百廿枚、升麻十一兩二銖、干藍二分、豉一合一勺、前胡二斤一分、白芷二斤一分、當歸四兩二分、蒴藿一斤一分、商陸四兩一分、茵草三斤五兩、黃耆四兩一分、牡丹四兩一分、地榆四兩一分、大戟五兩一分、玄參三兩三分、白頭公三兩一分、躑躅花九兩一分、菝葜一兩一分、略○中

遣諸蕃使 唐使略○中

草藥五十九種